

機関番号：18001

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21792314

研究課題名（和文）沖縄県の地域特性を考慮した保健師と母子保健推進員の協働に関する研究

研究課題名（英文）Studies on Partnership of Public Health Nurses and Mother and Child Health Volunteers in Okinawa

研究代表者

當山 裕子 （ TOYAMA YUKO ）

琉球大学・医学部・助教

研究者番号：90468075

研究成果の概要（和文）：

本研究では沖縄県内で活動する母子保健推進員（以下、母推と略す）と保健師を対象にアンケート調査や面接調査を実施し、母推の活動意識や協働に必要な要因を検討した。母推が認識する行政への関係性の違いが活動への責任の重さへ関連があることや、母推は保健師とのパートナーシップ形成に『開放的で対等な関係』が必要であると考えていることがわかった。保健師を対象とした調査からは保健師が母とのパートナーシップを構築する際に用いた技術や過程が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

Both Public Health Nurses (PHNs) and Mother and Child Health Volunteers (MCHVs) are research activities in Okinawa which conducted the questionnaire survey and interview research, considering the factors of MCHVs activity awareness and collaboration. I understood that the difference in relationship to the administration that MCHVs recognized than questionnaire survey to MCHVs was related to weight of the responsibility to activity. In addition, MCHVs understood that I thought that "the relations that I was like opening, and were equal" were necessary for the partnership formation with the PHNs from an interview investigation.

Process and utilizing PHNs build a partnership with the MCHVs from the survey of PHNs became apparent.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000 円	270,000 円	1,170,000 円
2010年度	500,000 円	150,000 円	650,000 円
2011年度	400,000 円	120,000 円	520,000 円
総計	1,800,000 円	540,000 円	2,340,000 円

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：保健師、母子保健推進員、協働、沖縄

1. 研究開始当初の背景

子育て中の家庭、とくに乳幼児を抱えた母親は孤立しやすい。厚生労働白書でも、わが国

の子育て環境の状況として少子化や核家族化の進行、地域社会の変化など、地域共同体の

機能が失われている中で、身近な地域に相談できる相手がいないなど、子育てが孤立することにより、その負担感が増大していると指摘している。そのため、厚生労働省は、生後4か月までの乳児がいるすべての家庭を訪問し、さまざまな不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供を行うなど、乳児のいる家庭と地域社会をつなぐ目的で生後4か月までの全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）を平成19年から開始している。

沖縄県においてはこの「こんにちは赤ちゃん事業」を各自治体の母子保健推進員（以下、母推と略す）と保健師が協働して行っている。母推は市町村長の依頼を受けて、妊産婦や乳幼児等の家庭を訪問し、健康診査の受診をすすめたり、相談相手となったりして行政とのパイプ役となり、地域における母子保健活動を推進している。

研究者が沖縄県母子保健推進員研修会において、沖縄県のご協力を得、母推を対象に昨年アンケート調査をした結果では、活動を継続したいと希望する母推は活動に対するやりがいを感じる、活動を通して自分が成長できる、活動が楽しい、困った時保健師が相談相手になる、行政との関係が対等もしくは推進員が主導権を持っていると考えていることがわかった。また、母推の平均活動年数は12年であり、活動年数の最長者は30年にも及ぶ。沖縄県は島しょ地域であり、11年前（平成9年）まで保健師駐在制度がとられていた。現在母推として活躍している方々の多くは駐在保健師と活動を共にし、社会資源の少ない離島やへき地において母子の健康づくりに貢献してきた方々である。

一方、この調査の中で行政の協力不足や活動の広報不足などもあげられている。母推自身が自分たちの活動の評価を地域住民や保健師、行政機関と共有できないことによって、

活動の成果や意義を感じられなくなるのではないか。住民自身のリーダーシップ機能においては健康問題解決の主体者である住民がその問題の取り組みの必要性を強く意識していく過程が重要である。

地域保健活動においてこのような一般住民から構成される組織を育成し活動を支援し活性化させることは日常的に行われてきた。しかし、近年保健活動の現場で働く保健師においては、人材育成の問題や分散配置などから、地域住民組織との協働についての技術が定着していない事が懸念されている。

2. 研究の目的

本研究では島しょ地域沖縄県で保健師が母子保健推進員活動の育成や活性化に関わった経過やその時の保健師の考えを聞き取るとともに、母推自身が活動の中で受けた保健師からの支援について聞き取り、保健師が行う住民組織活動との協働に必要な支援の必要性と方向性についての検討を加えたい。

3. 研究の方法

(1) 調査対象

- ① 沖縄県内で活動する母子保健推進員
- ② 沖縄県内の自治体に所属し母推の活動支援に関わったことのある保健師

(2) 調査方法

① アンケート調査

県内の母子保健推進員の研修会で調査したアンケート内容を使用した。

② 面接調査

対象となる母推、保健師に対しインタビューガイドにそって半構成面接を行った。承諾を得てICレコーダーに録音、調査用紙へ記録した。その後逐語録を作成し、データとした。

③ 関係資料や活動場面の見学

母推活動に関する資料の収集、活動状況の見学を行い、フィールドノートに記録し、面

接調査でとらえきれない部分を補完した。

(3) 調査項目

- ① アンケート調査：基本属性、活動年数などの活動状況、行政との関係への認識、活動への意識（17項目）
- ② 母推への面接調査：基本属性、推進員になったきっかけ、日頃行っている活動や、心がけていること、母推の役割について、気になる親子との関わりの経験など。
- ③ 保健師への面接調査：基本属性、母推との活動の内容、うまくいった経験やうまくいかなかった経験、関わりの中で心がけていること等

(4) 分析方法

アンケート調査の結果は、母推がもつ活動への意識についての分析を基本属性、経験年数、行政との関係性の意識別に検討を行った。

面接調査の逐語録とフィールドノーツの結果は質的帰納的に分析した。

(5) 倫理的配慮

① アンケート調査について

対象者には、調査の主旨、調査への協力は任意であること、匿名性を保持することなどを記した協力依頼書と調査票を配布した。調査会場に回収箱を設置し、各自で提出を行い、調査票の提出をもって調査への同意とみなした。

② 面接調査

対象者には研究の目的と研究計画、倫理的配慮について十分な説明を行った上で、協力を要請した。研究への参加意思を確認後、参加同意書に署名してもらった。倫理的配慮の内容は対象にかかる負担や録音の依頼、調査への参加および拒否・中断の自由、データ使用と管理方法、個人のプライバシーの保護の順守である。得られたデータはコード化し、個人名が特定できないようにする。また、個人的な情報に関しては連結可能な匿名化を

行い、連結データは研究者のみが保管すると約束した。なお保健師を対象とする面接に関しては琉球大学臨床研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(1) 沖縄県内で活動する母子保健推進員の活動意識

県内で活動する母推の活動意識について調査し、母推の活動意識に関連する要因を明らかにし、今後の活動支援に生かすことを目的としてアンケート調査を実施した。対象は県が主催する研修会に参加した県内 33 市町村の母子保健推進員 362 名である。今回の研究ではこれまで把握されていなかった県内で活動している母推の活動への意識が明らかになった。母推は女性で、50 歳代の方が多く、仕事を持ちながらも、活動を楽しみ、自分の成長につながると自覚しながら、仲間との信頼関係を築き、地域に関心を向けながら活動している様子がうかがえた。また、行政との関係が対等、もしくは母推が主導権を持っていると意識している人は約 3 割で、行政との関係性において活動の責任の重さへの意識に影響があることが示唆された。

(2) 母子保健推進員が認識する保健師とのパートナーシップ

本研究では、母推を対象に面接調査を行い、母推が認識する保健師とのパートナーシップの内容を明らかにすることを目的に、沖縄県内の 9 市で活動する経験年数 5 年以上の 15 人の母推を対象とし、半構造面接を行った。面接内容を逐語録に起し、「母推活動の中で保健師との関わり」を示す内容を記述し分析した。調査期間は平成 21 年 11 月から平成 22 年 3 月。母推と保健師とのパートナーシップの内容として、6 つのカテゴリー『』を

抽出した。保健師から母推ができる範囲の『活動を託される』、母推と保健師が『活動の場を共にする』こと、母推は活動の中で気付いたことを保健師に『相談』し、保健師からタイムリーに専門的な『助言』を受ける、母推の『活動の成果』が示されることで保健師への信頼感が高まるプロセスを経験していた。加えて「本音で話し合える」ことや「お互い様」と感じる『開放的で対等な関係』が母推と保健師のパートナーシップの形成を強化していた。

また前述の対象者の中から母推6名の面接調査の結果を用いて、地域ケアシステムの中で推進員が果たしている「パイプ役」の構造を明らかにすることを目的として、面接内容を逐語録に起し、活動の中で「住民と行政とのパイプ役」を果たした内容を分析した。

その結果、母推は住民と行政のパイプ役として紹介、報告、知識や技術の習得、共有、迷い、支え、成果、共感、やりがい、提供者などの項目が抽出された。推進員は住民や行政と協働していく中で、共感や共有を通しやりがいが生まれるが、迷うことも経験する。保健師が推進員と協働し子育ての地域ケアシステムを構築するには、推進員の迷いを受け止め、活動の成果を適時フィードバックし、支える存在となる必要がある。

(6) 保健師が母子保健推進員と協働する過程

保健師が母推活動の支援に関わった経過やその時の保健師の考えを聞き取り、保健師の母子保健推進員活動と協働する過程の特徴を明らかにする事を目的に、沖縄県内の市に勤務し母推の活動に関わった経験のある保健師6名である。調査期間は平成22年7月～平成23年10月。分析に際して「保健師母子保健推進員が活動を共にし、お互いが信頼し、育ちあう場面」を持続比較の問いとした。面接

内容を逐語録に起こしデータとし、意味あるまとまりごとに抽出した。

抽出された場面から保健師が母推と協働する過程の特徴として定例会や母子保健活動を共に経験しながらお互いの役割を確認すること以外に、日頃の「ゆんたく」を通して保健師と母推との接点を増やし関係が身近になるプロセスを形成していることがわかった。また保健師は母推の話聞くことが地域の母子保健活動につながる事を認識し、母推の活動に対する思いを尊重し、母推個人の得意な活動を奨励しながら活動に関わる姿勢があった。

加えて保健師自身が母推の活動に関わることでパワーをもらい、活動を共にすることでお互いがエンパワメントされる場面も抽出された。

(7) 母子保健推進員とのパートナーシップを構築する保健師の技術

保健師が地域から要支援者を発見して支援につなげた際に用いた、母推とのパートナーシップを構築する保健師の技術を明らかにすることを目的とし、農漁村地域と市街地の両方をもつ人口約6万人のA市において、母子保健活動を担う保健師と母推を対象とした検討を行った。データはインタビューおよび研究者がA市の保健師として参加観察してデータを収集し、質的分析を行った。研究期間は2009年4月～2010年3月である。

保健師が母推とのパートナーシップを構築する際に用いた技術は次の5つであった。母推担当保健師が用いた技術は【母推の活動を共につくる】、【母推との信頼関係を構築する】であった。地区担当保健師の技術は【母推によるサポートの有効性を判断する】、【母推にサポートを依頼する】、【母推の活動意欲を支える】であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- (1) 當山裕子：沖縄県内で活動する母子保健推進員の活動意識 沖縄の小児保健 39(13-18) 2012 査読有
- (2) 本田光、當山裕子、宇座美代子：母子保健推進員とのパートナーシップを構築する保健師の技術－人口6万人規模の地方自治体における地域母子保健活動の実践－日本看護科学学会誌 22(1):(12-20)2012 査読有

[学会発表] (計7件)

- (1) 當山裕子、宇座美代子、古謝安子、小笹美子：母子保健推進員が認識する保健師とのパートナーシップ、第70回日本公衆衛生学会総会、2011.10.19 (秋田)
- (2) Hikaru Honda, Yuko Toyama, Miyoko Uza: Mothers' reactions to the visiting project for all households with babies-Draw a comparison between mothers with their first baby and subsequent babies-, The 2nd Japan-Korea Joint Conference on Community Health Nursing, 2011.7.18 Kobe, Japan
- (3) 當山裕子：沖縄県内で活動する母子保健推進員の活動意識、沖縄県小児保健学会、2011.5.12 (沖縄)
- (4) Hikaru Honda, Yuko Toyama, Miyoko Uza: What type of health visitors are better for meeting mothers' satisfaction in relation to home visits?, International Conferences in Community Health Care Nursing Research Symposium, 2011.5.4-6,

Canada

- (5) 本田光、宇座美代子、當山裕子：地区担当保健師と業務担当保健師の連携による地区活動のモデル開発－母子保健推進員との協働活動を例に－、日本地域看護学会第13回学術集会、2010.7.11 (北海道)
- (6) 當山裕子、宇座美代子、古謝安子、小笹美子：母子保健推進員が果たしている「住民と行政とのパイプ役」の構造、日本地域看護学会第13回学術集会、2010.7.10 (北海道)
- (7) 當山裕子、宇座美代子、古謝安子、小笹美子：沖縄県内で活動する母子保健推進員の活動状況・活動意識、第68回日本公衆衛生学会総会、2009.10.21 (奈良県)

6. 研究組織

(1) 研究代表者：

當山 裕子 (TOYAMA Yuko)

琉球大学・医学部・助教

研究者番号：90468075

(2) 連携研究者：

① 宇座 美代子 (UZA Miyoko)

琉球大学・医学部・助教

研究者番号：00253956

本田 光 (HONDA Hikaru)

北海道大学・保健科学研究所・助教

研究者番号：80581967